あらすじ

・現代日本の片隅には光に隠れた闇が人知れず存在する。人間の理を離れたソレは人々を魅了し困惑させ破滅へと導くのだ。そして国もその存在にようやく認めると極秘にソレに対抗する組織を作った。

レギュレーション

◇キャラメイク◇

・全能力値振り直しを４回まで認める。

その中から１パターンを選ぶ。

・指定の能力値を１つだけ＋3にしてもよい。ただしその場合、全能力値のうち合計して-3すること。（＊例えばSTR12から15にするには、APPやDEX、CONからそれぞれ‐1をすること。DEXを-2,APPを‐1にしてもいいし、DEX-3にしてもよい。）

・職業技能と趣味技能は合算してそれぞれの技能値に振り分けること

・年齢は18歳以上～2１歳未満が好ましい。

◆一般探索者向け戦闘ルール◆

-------------------------------------------------------

★★注意★★

ハウスルール満載なので、自分達のやりやすい戦闘ルールを使用することを

強く進める。以下は参考程度に読んでもらえれば幸いです。

-------------------------------------------------------

《各種攻撃技能》《回避》《武道(受け流し)》について

・上限はない。

・また１Ｒ何回使用しても構わない。

「クリティカル」

・「受け流し」「回避」のクリティカル

カウンターとして相手の手番中に即座に攻撃できる。なお、この攻撃はクリティカル判定ではないので注意。
・「キック」「こぶし」その他攻撃のクリティカル
回避対象の回避無効、またはダメージを＋1Ｄ6してもいい。

「近接武器について」

・刀、棍棒等の近接武器を装備していれば、重火器および飛び道具の受け流しが可能。その時<武道＞が60以上あれば、武器が受ける耐久値のダメージは１/２とする。

・また、相手が<こぶし><キック>等の自身の肉体で攻撃してきた場合、受け流しで１D3のダメージを与えることができる。相手がグローブで攻撃した場合はグローブにダメージが入る。グローブ等の耐久値をオーバーしたダメージの場合は超過分のダメージがはいる。

近接武器を使いたい場合、GMに申告すること。武器のダメージを言い渡す。下記のものは一例

「近接武器大別ダメージ表」

刀→１D１０＋2

　ナイフ→2D4

　棍棒→1D6＋2

●上級者向け戦闘ルール●

（ここでは、TRPGをある程度慣れたPL向けのルールである。

戦闘に緊張感をもたらすためにある程度制限をかける。）

《各種攻撃技能》《回避》《武道(受け流し)》について

・キック・こぶし・頭突き・組み付き・近接武器などの技能値は上限を80とする。

　＜武道＞の上限は80とする。

　＜回避＞上限はDEX×５

＜受け流し＞は１ラウンドを無制限に使える。ただし、＜受け流し＞は1回使うごとに‐5づつ成功値が下がる。つまり＜受け流し＞50の場合、１ラウンドで2回目の＜受け流し＞をすると成功値は４５となる。3回目は４０となる。

なお、回避は影響を受けないが、１ラウンド2回までしかできない。

「クリティカル」「近接武器について」は上記と同様。

～概要～

君たちは【Searcher】と呼ばれる組織に入るべく試験を受けてもらう。【Searcher】とは表向きは警察と同じような活動をしているが、実際は超自然的な形容し難い事件に対処すべく国家が秘密裏に組織したものである。少数精鋭部隊なので、過度に人員は補給しないが3年に1度、一般人にはかなり分かりにくいように求人を募集している。

君たちには何かしらの事情でその組織の存在や超自然的な現象を知りえることができた。そして、何らかの理由でその組織の試験に受けることになる。

＊会場まで

苦労して手に入れた応募書類にはいくつかのことが書かれている。
・ここであったことは他言しないこと。

・何があっても責任は自分達が追うこと

・所持品は「自分が必要だと思うもの」を持って来ること

・〇月△日の14時に指定されたレストランまでいくこと。そこでウエイターに「ステーキ定食」を頼むこと。ウエイターは「焼き加減はいかがしますか？」と聞くので「弱火でじっくり」と答えて下さい。

あとは普通の応募書類と同様、顔写真をここに～とか、

印鑑はここに～みたいに書かれている。

・レストラン

どこにでもありそうなレストランだ。ウエイターがやってきて

「いらっしゃいませ何名様でしょうか？」

「●●名様ですね。こちらへどうぞ」

とテーブル席へ案内される。

「ご注文がお決まりになりましたら、またお呼びください」

　合言葉を言うと、

「・・・かしこまりました。それでしたら奥までどうぞ。」

と店の奥に進んだエレベーターまで案内される。

エレベーターに入ると鉄板付きのテーブルがあり、焼いたお肉やサラダなどがすでに用意されている。エレベーターの中にはシェフがいて、お肉類を焼いたりカットしてくれる。

約15分後、エレベーターがチンと鳴って扉が開く。
先を進んでいくと広い地下施設みたい場所が目に入り、受付嬢が受験者から応募書類を受け取っていた。

【第一試験】

受付嬢に応募書類を渡すと、中をみて顔写真と受験者が同じか確かめる。

それが終わるとナンバープレートを渡される。

会場には100人ほどの人間がいる。ワンフロアで扉は前後左右の４つ。それぞれ扉にはエンブレムが彫られている。

前方には薔薇が左手にはりんご。右手には本、後ろにはカバのエンブレムだ。君たちはカバの扉から入ってきた。



そして、数分後、薔薇の扉から長い金髪のグラマーな30代くらいの女性が入って来た。

離れていても感じる匂いのいい香水をしている。

「私は第一試験を担当している八神よ。」

「毎年この3分の１以下の人数なんだけど、今年は優秀なのか試験前の求人広告の作り方が甘かったのか、たくさんいるわねぇ」

「う～ん。このままじゃ次の試験でも大分余って支障をきたしそうねぇ…。」

「決めたわ。あなた達には潰し合いをしてもらうわ。ルールは簡単。自分以外のプレートを3枚奪取すること。どうせ強くないと【Searcher】は務まらないからねぇ。強さは正義よ。分かってる？」

そう言うと彼女は君たちから見て前方の扉の薔薇の真横まで歩く。

「いい？三枚プレートを取るのよ。**そしたら私が入る扉に向かうこと**。何か質問ある？なければ始めるわよ。」

Q開始の合図は？

A「ある方法でやるわ。それは教えない。でも大丈夫。それは一瞬だけどだれでも分かる。それが終わったら開始。他にはないわね？それじゃ・・・」

Q殺してしまったら？

A「優秀な医療スタッフがいるから心配しないで。首を飛ばされたり、頭がトマトみたいに潰れても問題ないわ」

「それじゃ健闘を祈るわ」

そう言うと部屋の明かりが消える。ここで「聞き耳」または「SAN値」で振ってもらう。「聞き耳」に成功すると、とても静かにドアを閉める音が聞こえる。どうやら後ろから聞こえてきた気がする。

「SAN値」で成功すると身体の横に得体の知れない恐怖心を煽るナニカが通り過ぎたような気がする。再びSAN値チェック。０/１(ちなみにナニカとは高速で動く八神さんです)

明かりがつくと、試験官はいない。それを合図に周りが怒号をまき散らしながら乱闘が形成されていく。

＊１D４を振って各NPCと3回戦ってもらう。

・NPC

1. 「ビジネススーツを来てビジネスバックをもったサラリーマン」

　HP10　DEX9　STR9 CON9

こぶし60/1D3　キック45/1D6　回避15

1. 「チャラい大学生」　HP10　DEX7　 STR10 CON9

こぶし50/1D3　キック55/1D6 組み付き65/1D4　回避20

1. 「顔に傷がある男」　HP13　DEX8　str11　CON13

こぶし62/1D3＋1D4　キック55/1D6＋1D4 組み付き35/1D4＋1D4　回避35

1. 「目つきの悪い女」　ナイフ耐久値10　HP9　DEX10 STR9 CON9

こぶし50/1D3　キック34/1D6 組み付き50/1D4　武道（ナイフ）60/2D4　回避25

受け流し(ナイフ)50/1D2

戦闘終了後、部屋は死屍累々残っているのは20数名ほど。

頭から血を流して息も絶え絶えな者もいれば、まったく息を乱さず準備運動をしたかのような涼しい顔をしているのもいる。

そして、各々が様子を伺っている。

探索者がどうしようか迷っていると、４人ほど動き出す。ある者は薔薇のエンブレムに。ある者は本のエンブレムに、ある者はカバのエンブレムに。

どの扉も開けてもその先はふつうの小部屋みたいになっている。

　それぞれの扉で目星ができることをＧＭは伝える。

成功すると、カバのエンブレムに金色の長い毛髪が1本落ちている。

また基本ルルブには「聞き耳の値が高いということは拡大解釈をすると全般的に知覚に鋭いともいえる」と書いてあるので、

聞き耳に成功すればドアにわずかに香水の匂いがしたことに気づく。

物音は特にしない。

カバのエンブレムの部屋に入る。数十秒後、身体が妙な浮遊感を覚える。見ると、床が真っ黒な靄に包まれ、重力に引っ張られ下に落ちていくではないか！

猛烈なスピードを感じ、眼下には固そうな床が迫る！

床に叩き付けられるその直前に魔法陣のようなものが浮かび上がる！するとスピードは弱まりふわりと床に着地する。このような怪奇的な現象を目撃したあなた達はSAN値チェック！０/１

これは試験官が魔術的な術式を展開し探索者の真横を高速で通ったから。風圧は感じられない。

＊＊もし、第一試験で別の扉を開けようとした場合、「目星」をまたは「聞き耳」を行う。そして、いちおう全ての扉を調べた方がよさそうだ。と伝えておく。それでも別の扉に入ると試験は失格。一気に3年後の時が流れ、またレストランからやり直しになる。

【第二試験】

そこは薄暗くオカルティックな雰囲気が漂う場所だった。君たちが地面に降り立つと次から次へと後続組がやってきた。

するとそこに和服を来た年端もいかないような女の子がいた。

「はーい、みなさんお疲れ様です！私は第二試験官の正殿と申します！」

「皆様お疲れ様でした！まずは先ほどの試験の簡単な解説をさせて頂きますね！」

「第一試験では3つのポイントを見定めるテストでした。まず1つ目は【戦闘力】です」

「Searcherたるもの、必要最小限度の戦闘力を持ち合わせていなければなりません」

「二つ目は不穏な気配を察知する【察知力】実はあなた方の横を怪しげな気配が猛スピードで横切ったのは気づけましたか？Searcherたるもの周りの違和にはすぐに気づかないと命取りなります！よく覚えておいてくださいね！」

「最後はもっとも重要な【洞察力】どんなモノが落ちているか周りの人間は何をしているか、などなど、感じ取る必要がありました」

「また、八神さんはかなり匂う香水をつけてました。扉には僅かながらその匂いを付着させていたようです。実は形状しがたい生物たちの中には独特な匂いを放つ個体も数多くいます。これも覚えておきましょう！」

「とまぁポイントを解説させて頂きましたが、皆さんが気になるのは次の試験内容でしょう！」

「第二試験は簡単です。合格条件は【素早く部屋から出ること】。さっきと同じっちゃ同じですね～。ただし、３人１組でやってもらいます。余った人は４人でやってもらいま～す。チームはランダムで分けます。仲良くしましょ～ね。」

そう言うと、正殿試験官は真ん中をくりぬいた段ボール箱を持ってきて手を突っ込んで

ゴソゴソと何かを取り出します。

引き抜くと数字が書いた細長い紙でした。

それを3つ取り出し、「〇番の人、◢番の人、■番の人、あなた方3名がチームです！」

といいます。

そんな感じでＰＣ達3人もクジで同じチームになります。

「準備ができた人は部屋奥にある陣の上にたってくださ～い」

正殿試験官がそう言うと奥に淡い光がする魔法陣のようなものがある。

さきほど降り立ったものと酷似している。

「はい。全員乗りましたね！それじゃ質問なければ始めますよ？……」

Qもし、チームのうち1人が死亡、もしくは身動きがとれない場合はどうなるか？

Ａ合格条件は「部屋から素早く出ること」です。例え自分以外の人間が全員死んでしまっても、この合格条件に満たした人のみ第2試験の合格者とみなします。

Q「部屋から素早く出ること」って具体的には何をすればいいんだ！？不親切だ！詳しく教えろ！

A　ふぁっきゅーで～す！そのくらい自分で考えてくださ～い。大人は全ての質問に答えたりはしませ～ん。

「あ、最後私からアドバイスで～す！よ～く聞いてくださ～い」

彼女はそれまでのヘラヘラした表情から真面目な表情をして、

言います。

「―――死ぬな……以上で～す！それじゃすた～とぉ！」

第二試験官の合図共に自分達が一瞬にして姿を消した。

視界が一瞬真っ黒くなり、真夜中の海に投げ出されたような感覚になる。

『冒涜的な汽車』

・導入

　ガタンガタンと規則的な振動で目が覚める。気が付くと列車の中でうずくまっていたと分かる。

・5分崩壊

ガン・ゴンと激しい音がする。巨大な金属塊で殴られたような音だ。

・10分崩壊

部屋に響く金属音が激しくなり、部屋がゴウンゴウンと揺れこのままだと脱線する危険がある。

・15分崩壊

・エネミー

　「異形の化け物」

HP：24

前方には赤赤と燃えるボイラーの上で複雑に組み合った無数の歯車が動いている。

ここがこの部屋の心臓部だろう。

筋骨隆々のおじいさんがスコップ(探索者分ある。)で石炭をすくいせっせとボイラーの中に入れている。

君のことを一瞥するとあごをしゃくり何かを伝えようとしている。

『心理学』/『pow×5』⇒成功で下に置いてあるスコップで作業を手伝えと言っているようだ

「スコップで手伝う」

　『Str✕6』に成功⇒蒸気機関車の速度がみるみるうちに上がっていく。ただし、石炭の投入をやめれば速度は下がってしまうだろう。

【後方の扉】

ドレスとコルセットに身を包み無骨なゴーグルをつけた、金髪の女性が扉の外に向かってサブマシンガンを絶え間なく連射していた。

あなたは扉の外を見る。線路の上にはもう一台の蒸気機関車が走っている。

猛スピードで迫るそれは異形の存在がいた。

溢れ出た無数のワイヤーが歯車や機械の部品を巻き込み、巨大な人間の上半身を象る。

骸骨のごとき顔が口を開き汽笛を上げる。

その奇怪な音は君の精神を揺さぶるにはあまりにも容易い。1D2/1D4

失敗した場合、その意味を理解する。「カエセ…カエセ」

　「女性(ドイツ人)」

女性は近づいたあなたを見るとひどく驚く。

しかし、その瞬間、迫りくる異形がワイヤーが鞭のように伸ばし、女性を襲う！

『DEX✕5』⇒成功すると、咄嗟に女性を押し倒すことでそのワイヤーを避けることができる。

女性はゴーグルを外し、笑顔であなたに声をかける。外国の言葉なのでよく分からないが感謝を伝えているようだ。そして軽くあなたの頬にキスをする。

女性のAPPは16です。

・穴

　車両の切れ目だ。足場に鉄板が渡してある。

『目星』⇒成功で鉄板の裏に連結部分を着脱するレバーがある。

『ボイラー』

　蒸気を管理する装置があり、蒸気が流れていない部分がある。

流れていない部分の蒸気をあなたは流しますか。流しませんか。

「流す」→プシュッー！とどこかで蒸気の通った音がした。

しかし、同時に車輪の回転が緩やかになり速度が1段落ちる。

鉄製の重たい扉だ。ビクともしない。

「蒸気を流す」→さっきまで動かなかった扉がいとも簡単に開けることができた。

扉の外はデッキとなっておりのどかな田園風景が流れている。

しかし、そんな風景にそぐわない黒光りするものが足元に鎮座していた。

それはペインレスとよばれる痛み感じる前に殺せる銃。重機関銃ガトリング砲だ。⇒【戦闘へ移動】

・テーブル

テーブルには羊皮紙がおかれている。羊皮紙にはいくつかの黒い線が書かれ、どのような仕掛けなのか、線の上を小さなコンパスがゆっくりと移動している。

『アイディア』⇒成功で黒い線は路線図だと理解する。コンパスはこの機関車の位置を示している。コンパスが向かう先は線が途切れている。

【戦闘】

重機関銃⇒神話生物⇒重機関銃⇒神話生物

ここで異形の存在をみたもの『アイディア』

列車は一定のスピードを保っているが、後どのくらいスピードが落ちると現実的に追いつかれるかが分かる。現在よりあと2段階ほど落ちると追いつかれるだろうということだ。

ちなみに現在は「速度２※」※ハッチの扉を開けている場合

「異形のなにか。2R以内にけりをつけないと死亡」

1R目のあと、女性が立ち上がりスカートをたくしあげる。

細く白い脚の間に、ゴトンと何かが落ちる。

それは鈍く金色に輝くロケット砲だ。

それを肩へ担ぐとためらうことなく轟音と共に放つ。ダメージ3D6＋4.

※弾は一発のみ

2R目最初、重機関銃を放つ。

最後の一撃を受けると、異形の機会は金属の擦れ合う激しい騒音とともに蒸気機関車ごと崩れ去る。それはあたかも断末魔の絶叫の様であった。

女性が歓声を上げ、ボイラーまで走り、生き良い良く老人の首に抱き着く。

そんな女性に見向きもせず老人は黙々と石炭をくべる。

瞬く間に、機関車が速度を取り戻してゆく。

探索者たちの脳裏に、残響のように異形の機械の悲鳴がこだまする。

『カエセ…カエセ…ワシの身体をカエセ！！』

「老人の正体」

ボイラーの上の歯車が猛スピードで回転する。外の景色が瞬くまに流れていく。

老人が君たちの方を向き、口を張り裂けんばかりに笑う。その目は時計の文字盤

だ。老人は右手を上げると鉄骨溶かした指で、服を脱ぐように胸の皮をはぐ。

その下には無数の歯車がひしめいている。左の袖から飛び出たワイヤーが触手のように女性を縛り上げ中空へ持ち上げる。

SAN値チェック1/1D3＋2(最初に悲鳴が聞こえたものは＋1)

老人から伸びるワイヤーが部屋の中を侵食してゆく。

先頭車両が全て飲まれるのも時間の問題だろう。また、この機関車が進む線路は途切れている。

たとえ敵の攻撃をしのぎ続けたとしても絶望的な事態は免れない。

もし、女性を助けたい！と思ったら以下の行動をおもいつく

1. STR対抗でワイヤーを引きはがす。
2. 床に落ちたサブマシンガンを老人に撃ち、ひるませる。

その後、

連結部部分を外すし、レバー倒す。

レバーは途中で止まる。

何か硬いもので殴りつけるか、強い衝撃をあたえる必要がありそうだ。

※スコップ等を使う。もたもたしてたらアイディアで教えたる。

甲高い音をたてて、列車の連結部分が外れる。

凄まじい速度で離れてゆく前方車両からワイヤーがあふれだし、巨大な骸骨を象る。その手が後部車両を捉えようとした、

その時――前方車両が宙に浮かぶ。線路の切れた先。そこはいずれ橋がかかる予定の深い深い峡谷だ。機械の怪物は口惜しそうに、しかしどこか愉快そうに地の底へ落ちてゆく。

◆閉じ込められた！

◆NPC

●ピエロ人形
ルール説明をしてくれるウザい口調のピエロ人形。
中は機械でいっぱい。

●ミ＝ゴ
下からこんにちは！
ちゃんと粘液ガードもついてます。

↓ステータスはこちら↓

●異形の機械生物ミ＝ゴ
STR:10　　DEX:15　　INT:10
CON:10　　POW:10　　SIZ:10
H P:10　　M P:10 　回避:30

バイオ装甲：打撃、斬撃、銃撃に強い。（これらが与えられるダメージは１のみ。）
　　　　　　ただし、電撃に弱い。（ダメージをそのまま通します。）

回転ノコギリ：成功率30％　ダメージ1D6

◆マップ


◆シナリオ

●導入

何気ない日常を過ごしていた探索者たちはいきなり意識が暗転する。

気づけば見知らぬ部屋に閉じ込められてしまっている。

周りを見渡せば同じように連れてこられてであろう人達が倒れている。

中央の机には、ピエロ人形が異様な存在感を醸し出している。

「good morning！」

突如ピエロ人形から機械チックな子供の声がする。

その声にみんなピエロに注目することだろう。

「君たちは素敵なゲームに選ばれた！

素敵な素敵なDeathGame！

死にたくなければ脱出だ！

扉の向こうに逃げ出そう！

ルールは机の上のHow to playを読んで！

さあ！楽しいゲームの始まりだ！」

「ビー」とブザーが鳴り響き、部屋にあるデジタル時計時間を刻み始める。

●部屋の様子

部屋はまるで強盗でもはいったのではないかというぐらい荒らされている。

床や壁にはベタつく液体が飛び散った跡が残されている。

特に目につくものといえば・・・・

「机」「崩壊した棚」「球体の置物」「デジタル時計」「カーペット」「床に空いた大穴」「壁掛け鏡」「ガラスの扉」

ぐらいだろう。

●机

机の上には先ほどのピエロ人形の他に「How to play」と書いてある紙が置いてある。

▼ピエロ人形

触った感じ中に何か硬いものが入っている。

中を確認すると、綿に包まれスピーカーや受信機だろう機械が詰まっていた。

▼How to play

ピエロの言っていた脱出ゲームのルールが書いてある紙であろう。

＊＊＊＊How to play＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

・クリア条件

制限時間内にこの部屋から脱出する。

・ルール

制限時間は３０分。

行動制限は一人５回。

（行動＝ロール　一人５回までロール出来る。探索する場所で目星・アイディアなど2回調べられるところは１回のロールで２回調べさせる）

戦闘中は行動回数は減らない。

制限時間を超えたり、行動制限以上に行動するとゲームオーバー。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●崩壊した棚

何か大きなもので切り裂かれたかのように見える。

唯一壊されていなかったところには金庫がはまっている。

金庫には、「EMERGENCY ONLY」(緊急時のみ)という文字が書かれている。

その下には、赤いボタンがついている。

赤いボタンからは絶えず火花が飛び散っている。

▼ボタンを押す

ボタンを押すと、強い電流が体を突き抜ける。

1D4のダメージを受ける。

（CON×5に失敗でスタン状態となり全行動が1/2となる。っというのを付け足してもOK！継続時間はKPに任せます。）

ボタンを押したことにより金庫が開く。

中からはいくつもの金属が組み合わさりできたL字のオブジェが入っている。

▼L字のオブジェに目星

歪だが、引き金や銃口のような部分があることから拳銃のようなものだとわかる。

・電撃銃

成功率：25％（拳銃技能で代用可）

威力　：1D10

装填数：10

●デジタル時計

ピッピッピッと電子音を響かせながら、時を刻んでいる。

画面の下には小さなフタが付いている。

歪んでいるが、力を込めればなんとか開けられるだろう。

フタSTR8との抵抗ロール成功で開く。

中には、USBメモリが入っている。

●カーペット

ざらざらとした薄いカーペット。

めくると、巨大な円形の窓が現れる。

窓の外は無数の星が輝いている。

（ここでアイデアを振ってもらい、成功でここって宇宙・・・？と思い怖くなった。0/1のSANチェックをいれてもOK！）

▼目星

じっと外の様子を伺うと、歯車や鉄骨、粘液が組み合わさってできた不気味な生物が横切る。

横切る際にそれと目があった気がし、恐怖で身震いするであろう。

1/1D6のSANチェック。

●床に空いた大穴

穴のふちは溶けた金属と何かが混じり合い、異様な色合いと異臭を放っている。

中はパイプや配線、鉄骨などが複雑に絡み合い底が見えない。

穴の中にも床や壁に飛び散ったベタつく液体に似たものが付着している。

▼目星

ショートした配線の近くでベタつく液体が焼け焦げている。

▼知識1/2・薬学・科学

この穴は強い溶解液によって開けられたものだ。

触れると大変なことになるだろう。

よく見ると、ショートした配線の近くでベタつく液体が焼け焦げている。

溶解液に触れてしまった場合、1D6のダメージを受ける。

＊ベタつく液体と溶解液は別物。

●壁掛け鏡

スチール製の枠にハマった、大きな鏡（１ｍほど）が二枚壁に掛かっている。

取り外すと、裏に「disposable」(使い捨て)の文字と共に、鏡を両手に構えレーザーを跳ね返す人の姿が描かれている。

▼目星

下の方に小さく「It may be・・・」（たぶんね・・・。）と書かれている。

▼鏡で脱出を試みる

調子よくレーザーを跳ね返している。

これなら行けるのではないか、と思いつつ先に進んでいく。

まだ、来た道を引き返すなら引き返せる距離だ・・・。

幸運成功で無事戻れる。

先に進む・・・・。

だんだん鏡が熱くなるのがわかる。まだ鏡はレーザーを跳ね返しているが・・・。

まだ出口はない。

幸運1/2で無事戻れる。

先に進む・・・・。

鏡が溶けてきている。かろうじて跳ね返している。

まだ

まだ出口はない。

幸運1/4で無事戻れる。

先に進む・・・・。

（↓幸運失敗はここから↓）

鏡に穴があいた。体にレーザーが当たり、焼けるような痛みを感じる。

どんどん穴が開く。体が熱い・・・。痛い・・・。

熱い・・・。痛い・・・。あつ・・い・・いた・い・・・あぁ・・・。

ダメージ1D４を失敗した分受ける

体が焼け焦げる痛みを感じつつ意識が無くなる。

（キャラロスト）

●ガラスの扉

厚いガラスでできた扉。

白みがかっているが、うっすらと奥に続く廊下が見える。

ドアの前に立つと、両サイドにスライドし開く。

廊下には壁から壁に無数の赤いレーザーが張り巡らされ、避けて通ることは不可能であろう。

▼レーザーに触れる

触れた部分がやけどに似た痛みを感じ反射的にレーザーから離れる。

1D４のダメージを受ける。

ピエロ人形を投げ入れれば、レーザーに触れた瞬間発火し、燃えカスとなるだろう。

●球体の置物

木の台の上に置いてある球体のオブジェ。

完全な球体だが、表面はデコボコとしており隕石ののような印象を持つだろう。

▼目星

よく見るとUSBの差し込み口や何かのジャックなどがついている事に気づく。

これはコンピューターの一種ようだ。

見つけたUSBメモリを差し込むと、「ヴィー」と中から機械音がするそして置物の後ろの壁に

「5 minutes remaining until the security release .」(セキュリティ解除まであと５分。)

と文字が浮かび上がる。

それと同時に穴の奥のから、金属同士が激しくぶつかる音がだんだん近づいてくる。

ここから戦闘に入るまで１ラウンド分行動出来る。

セキュリティ解除まで５ラウンド持ちこたえれば、レーザーは消える。

➡ここは宣言した方がいいかも？

５ラウンド目の終わりに「Security release completion」（セキュリティ解除完了）の音声案内が部屋に響き渡る。

ガラスの扉が開き廊下のレーザーは消えている。

▼戦闘。

大穴から機械の部品が粘液により無数に絡み合い、結合し、異形の甲殻類を思わせるフォルムを形作っている。

足を思わせる鉄骨のアームには巨大な丸鋸がついており、金属の擦れる甲高い音とともに回転する。

その姿を見たものは、1/1D6+1のSANチェック。

その怪物はその先に行かせまいと扉の前をフラフラと漂っている。

●異形の機械生物ミ＝ゴ

STR:10　　DEX:15　　INT:10

CON:10　　POW:10　　SIZ:10

H P:10　　M P:10 　回避:30

バイオ装甲：打撃、斬撃、銃撃に強い。（これらが与えられるダメージは１のみ。）

　　　　　　ただし、電撃に弱い。（ダメージをそのまま通します。）

回転ノコギリ：成功率30％　ダメージ1D6

ミ＝ゴは、自分に近い人を優先的に攻撃する。

廊下に出たものは攻撃しない。

基本的に、扉の前から移動はしない。

扉の向こうに行くためには、ミ＝ゴとのDEX対抗となる。

成功すれば扉の先に進めたこととする。

（PLのDEXに合わせてミ＝ゴのDEXを調節してください。）

制限時間内にミ＝ゴが倒された場合。

状況に応じて、ミ＝ゴを追加したり、戦闘終了としたりはKPにおまかせです。

全員扉の向こうに行けた場合　ED：To everyday（生還エンド）へ

全員扉の向こうに行く前に時間切れした場合　ED：Into space（時間切れエンド）へ

（この時廊下の奥に逃げた人がいればその人のみ生還エンドでもOK）

死亡した場合死亡した人のみ　ED：After death（死亡エンド）へ

『深淵からの嘆き』

・導入

　探索者は薄暗いとある病院の一室で目を覚ます。一見なんの変哲もない病室だが部屋にはかすかに磯の香がする。そしてここには何か得体のしれない、触れてはならないものがいることを本能的に感じ取る。そして部屋の中央に小さな少女が体育座りしている。

・5分崩壊

　部屋にミシッミシッと何かが軋む音が聞こえる。まるで外側から何か圧迫しているような音だ。

・10分崩壊

　壁の一部分が抜け落ち、鉄砲水のように塩水が勢いよく溢れ出して来たこのままだとこの部屋一面が水で満たされてしまうことを探索者達は感じ取る。San値チェック⇒1／1D3

・エネミー

　「黒いワンピースの少女・ハリセンボン」ハリセンボンのようなとげとげしい影がそこにはあった。⇒目や鱗などはなく、輪郭だけがぼやけてシルエットのように存在し、影の如く真っ黒に染まっていた。そしてよく見るとそのハリセンボンの中にこれまた黒いワンピースを着た少女が体育座りしているのがいる。まるでハリセンボンは彼女の結界のように見えるかもしれない。

　そんな中奥に目をやると長方形の光が探索者を導くかのように淡く発光していた。君たちはこれは出口だと直感するだろう。

　ただ、コレからは恐怖と畏怖が心を串刺しにするように言い知れぬ不安が精神を汚染する。San値チェック1D3／1D6(タコがついていた探索者は精神を1点支払い狂気を取りぞのいてくれる)

　扉までの最短ルートはこのエネミーのすぐ脇を通ること。これだと何事もなければ1ラウンド光に向かって進むことを宣言することで通ることができる。

　＊ここで少女を引き連れようとすると少女はそれを拒もうとする。それでなお連れこもうとする時はタコがついている探索者の後ろに行く。

　タコがついていない場合は少女を担いでいく場合は＋1ラウンド・＋1D3のダメージで脱出することになる。

＊脇をとおる⇒回避を2回行う

2回とも成功⇒脇を通れる。

1回目に失敗⇒1D4のダメージ。POW×5の判定に成功すれば光に進むことができ、2回目の回避判定を行うことができる。失敗した場合そこで足は止まり、次はその位置からラウンドが始まる。光に向かって進む場合は知力判定に成功する必要がある。

2回目に失敗⇒1D4のダメージ。同じく精神判定に成功すれば光に進むことができる。

　　　　　　　　　　　　　　　失敗した場合はダメージを受け、そこで足は止まる。次はその位置からラウンドが始まる。光に向かって進む場合は知力判定に成功する必要はない。ロストなどしていなければ光に入ることができる。）

　＊部屋の隅を通っていく⇒回避１回

これだと何事もなければ2ランド光に向かって宣言することで進むことで通ることができる。

1ラウンド目に部屋の半分までいくことができる。2ラウンド目は回避判定に成功すれば光に辿り着く。失敗すると1D6のダメージを受ける。POW×5判定に成功すれば、足は止まらずに光に辿り着く。）

　＊右ストレートぶん殴る→対決

探索者がタコを装備している時、タコが話しかける「汝よ。あの患しい影を打ち滅ぼしたくはないか？　アレさえなければ主らも安息して向こう側へいけるだろうて」

「お主の力を少しもらおう。そうすればあの影を打ち滅ぼす力をやる」

　戦闘前。探索者のMPを1減らすことでエネミーに攻撃することができる。攻撃を宣言するとタコが紅蓮の炎を纏い探索者の右腕を業火で包み込む。

「これでやつに打ちつけるのだ！」

　右ストレートでぶん殴る→これ自体は「こぶし」などはいらない。しかしそれに合わせて冷たく禍々しい針がすさまじい速度で飛んでくる。

⇒STR＊5判定・元のあたいにもどる⇒成功⇒炎が針を伝いエネミーの全身を業火で焼き尽くす。不快で汚らしい悲鳴とともにそれは掻き消え、中にいた女の子が露出された。その子は体育座りをしたまま動く気配を見せない。

　　⇒失敗⇒1D3のダメージを受ける。

「くそ。次こそは必ず滅するぞ。さぁ立ち上がるのだ。先ほどよりもお主の力をもらい受けるぞ！もう一度攻撃するためにはまた精神を1減らさなければならない。だが、MPをその分消費すればstrにのってくる。

抵抗ロール成功⇒すさまじい力と力の衝突で針がそれ頬をかすめる。ハリは紅蓮の炎で燃え、それが針を伝って影全体を猛火で覆う。するとその陰はボロボロと崩れ落ちる。

【エンディング】

・ハリセンボンを倒した

『よくやった。人間にしては其方も中々のものだった……。縁があればいずれまた会えるやもしれんな』そう言って探索者の右手からタコが離れる。そして黒い服の少女の

もとに近寄ってゆく。

　その後を追うように白い服を着た少女も近寄って行く。そして白い服の少女は目の前のそっくりな自分を抱き合い何かを呟いた。タコが二人の少女に触れると黒い服の少女の体がいくつものシャボン玉に分解し、虚空に向かって消えていった。

　そこで部屋から水が一気にあふれ出し、部屋中を埋め尽くした。光に入った探索者達は全身が徐々に光なって消えてただその光景を見ることしかできない。やがて部屋のすべてが崩れ落ち、少女とその隣にいる今となってはよくわからない生物が深淵へと落ちていった。そして最後に少女は優しい笑みを浮かべあなたたちに向かって口を動かして何かを伝えた。そうしていると探索者達の光はより一層白く輝き視界は揺らいで意識は遠のいていった。完全に意識が消えうせるその刹那に5つの光(生存者＋少女の数)が天に向かって伸びていった。

・扉

　長い取手が付いた横に轢くタイプの扉だ。／(宣言)扉を開ける／扉は鍵穴もないのにもかかわらず固く閉ざされている。／(聞き耳)／成功⇒扉の奥で女の子のすすり泣く声が聞こえてくる。またそれとは別に奥で何かが蠢く音も聞こえてくる。San値チェック1/1D3

・穴

　取手の付いた丸いガラスが張ってある。覗き込むと薄暗い中白い砂が見える。この部屋が宙にういていることが分かる。／(宣言)扉を開ける／ガラスを少しでも開けた瞬間、この部屋を水で満たさんとするほどのすさまじい勢いの海水が流れこんでくる。（反転）このガラスは次の手番の人ではないと閉められない。／(宣言)閉める／(筋力)14対抗／成功⇒ずぶぬれになりながらもガラスを閉めることができる。そして（最初にガラスを開けようとした探索者）右手に何かぬめりとした赤黒いものが吸い付いている。そうこの軟体生物はタコだということが分かる。以後探索者Xはstrが半分になる。割り切れなかった場合は切り下げする。／(宣言)タコを引きはがす／タコを引きはがそうとすると『やめろ。我を邪険に扱うではない』という声が脳に直接聞こえてくるように感じる。⇒san値チェック0／1

『我がついていればいずれは役立つ時が来るだろう。その時には其方の精神を少しもらうがな』と目玉をぐるりとあなたに向ける。

【エネミーと遭遇】

　ハリセンボン（グラーキ）と接触すると、探索者の脳内に『やっと現れたか。下級の分際でよくも我の玩具をたぶらかしたな』と怒りがこもった声が響く。

　そして『アレに向かって我を突き出すように其方の右腕で渾身の力を込めて殴れ。さすればこの世界から抜け出せられる』と話しかけてくる。

・棚

　薬の瓶がいくつも並んでおり、包帯や綿棒、ガーゼなどの他にいくつかの書類が収まっている／(知識)／成功⇒書類の中から誰かの診療経過を記録したものを発見する。（反転）中を読み進めていくと、これは難病の一種で今まで何回か手術を行ったが症状は未だ快方に向かっていないことが分かる。そして次の手術は昼の12時に行われると記載されている。

・カーペット

　体育座りで震えながら頭を抱えている女がいる。年は６歳くらいで、長い黒髪に白い病衣を着ている。／(宣言)声をかける、体をゆさぶる／まったくの無反応で心ここにあらずという感じ。よくみるとほほが涙で濡れている。

・フレーム

　窓を覗くと、まず目に飛び込んでくるのが深い青であるということ。そしてその景色に白い霧状の魚のようなものが泳いでいる。そして探索者はここが海の中にいると気づく。

San値0／1

・時計

　丸い壁時計の針は１1時45分を指している。／(宣言)時計にふれる／ふれようとする→少女が後ろから抱き着いて、首を横にフリフリする。それでも近づくと時計の中から白い霧のような実体があやふやな姿をしたイルカがあなたの指にかみついてくる。⇒1D3のダメージを受ける。／(宣言・同シーン)引きはがすor時計から遠ざかる／イルカは指を離し、時計の奥へ消えていく。

・テーブル

　机の上には魚やイルカ、クラゲなどの海の生物が折り紙で作られている。(宣言)テーブルの下を覗く/下を覗くと一つの便せんが落ちている。便せんにはミカへと書かれている。この中には一枚の紙が入っているようだ(宣言)中に何が入っているか確認する／一枚のかわいらしい封筒がある。内容は「ミカへ。しゅじゅつはこわいよね。ミカにばっかりつらい思いさせてごめんね。ミカがつらい分ママとパパもとってもつらいよ。ミカのことをパパやママだけじゃなくて、学校のともだちやせんせい、それにミカにあったことがない人もミカの病気をしってしんぱいしてくれているよ。しゅじゅつはたいへんだと思うけど、ミカは一人じゃないよ。みんながついている。

たいいんできたらミカのすきなおさかなさんがたくさんいるすいぞくかんにいこうね。ミカのだいすきなハンバーグもつくるよ。たいへんだけど、あとすこしだけがまんしてね。ママとパパはずっとミカのことをみまもっているよ」と書かれていた。（もし、手紙を見ずにミカに渡すと、ミカは探索者と話せるようになる。またその探索者の言うことにある程度従う）

→→2回脱出成功することで次の試験にいける。

【第三試験】

鼻をツンとする薬の匂いで目が覚める。ここはどこかの病室のようだ。身体には外傷はない。先ほどの出来事は夢だったのだろうか。そう思う。辺りを見渡すと自分たちを含めベッドで１２人起きていた。

「やぁみんなおはよう。うむ。思ったより時間はかかったな。まぁいい。第二試験突破者は現時刻を持って締め切る。」

目の前には身体から薬用アルコールやその他の薬の匂いが身体に染みついてるであろう女医がいた。

「私は第三試験官の蓬(よもぎ)と言う。早速、先ほどの試験のポイントを言おうか。」

彼女は一拍置いてから口を開いた。

「先の第一試験では戦闘力・直感的な判断力を見させてもらった。」

「今回の第二試験ではチームワーク力と推理力、そして未確定な未来に飛び込む【勇気】を見させてもらった」

「もう少し詳しく解説するとSearcherは一般人には予想もできない難事件を解決していく。だから謎を解明する頭脳が必須だ。さらに得体の知れない神話生物が這い寄ってくるので、スピーディーに解決をしないといけない。そのためには自分だけではなく仲間の力も必要になってくる」

そして、何よりも大事なのは【勇気】だ。絶対などというものはない。この扉を開ければ絶対に助かるなどという保証は存在しない。その時、自分と仲間を信じで未確定の未来に飛び込む勇気があるのか。以上3点を見定めるテストだった。」

「さて、第二試験突破者のみんな。これより最終試験をはじめる。これをパスすれば、今までの不条理な試験ともおさらば。晴れて「Searcher」の一員になれる！」

「正面の扉を開けると4つの魔法陣が敷かれている。好きなものを選びたまえ。全員が陣の上に乗ったら試験を始めよう。なお、今回も３人一組の第二試験と同じチームでやってもらう」

全員が陣の上に乗るor最終試験は一体何をやるんだ！？ときかれたら答える。

扉に入ると淡い光を放つ陣がある。しかし今までのものと違い、何か異質でとても危険な気配がする。一度入ったら二度と戻ってこれないような、入ったら絶対後悔するような、そんな気がする。

「では、最終試験の合格条件を説明しよう。安心してくれ至ってシンプルだ。」

彼女は数秒の沈黙を作ってもったいぶって話した。

「条件は１つ。【現実を受け止めろ】……だ」

「自分が世界でどれだけ小さい存在か。身をもって体感しそれを示せ」

そういうと、魔法陣が一斉に輝きだす。

「最後にアドバイス。逃げ道はいつでも用意してある。紅い扉から出るんだ。鍵はいつでも開いているよ」

蓬試験官がいうや否や身体は浮遊感を覚え、意識が一瞬の内に途絶えた。

【命大事に】

目を開けると薄暗い廃墟のような場所にいた。

月が時折顔を出して最低限の光源を保っている。

目の前のテーブルには一枚の紙が置いてあった。「地下室に行き、鍵を奪取して青い扉から極秘資料を入手すること。」

目星⇒地下室を開けると入口につかわれていないランプがある。まだ使えそうだ。人数分ある。

石の階段が続いて奥に行くとに入ると奥から吐き気を催す匂いがする

地下室に入ると、燭台がいくつも光を灯し、君たちは部屋がなぜか赤い着色料でおおわれていることに気づく。そしてそれはそれは奥への道に続いていた。

奥へ進むととても開けた場所にでる。どう作ったのか、天井は10メートルほどある。そして前方、右手には青い扉が、左手には赤い扉がある。

しかし、そんなことよりも目を奪われる光景がそこには広がっていた。

血の気が失せた真っ白で肥満系の巨人がそこに佇んでいたからだ。よく見ると首から上が存在しない見るに堪えない容貌をしている。両腕の手のひらには顔に口がない代わりに、手のひらに牙を見せる口があるではないか。

胸元辺りが青く白く何かが発光している。よく見ると鍵が体内に埋まっていることに気づく。

目のないソレは君たちの気配を察するとずん、ずん、ずんずんずんと速度上げて迫ってくる！全身の細胞が震えあがり、今すぐここから逃げろと叫んでいる。

SAN値チェックだ！１/1D10＋1→戦闘はできからず発狂はするがそれでも、何もしないとただ殺されるだけだと思う。

イゴローナク　DEX14　HP75　装甲ナシ

3R経過して6点分の血液を採っている。⇒口元からイゴの落とし子✕2を産む。HP30

むさぼり喰う100/1D4⇒1Ｒ2回

血が止まらないなどやばい演出をする。この情報は伏せる（治療不可のダメージ）

肉を両手で取り合う。口元をゆがめるなど、恐怖心を煽る。

＊行動原理

　来た道から逃げようとする人間に対してはDEX対抗をしてでも優先的に攻撃。探索者が通路に逃げこんだ場合は、探索者が2回ロールしたら道を破壊して攻撃。腕長い死届くでしょ。地上に出た場合は、地下室を破壊しながら地上に君臨する。強い。その場合は扉は運よく破壊されずに眼下に見える。

＊紅い扉にてを駆ける。

すると、ここまで来て本当にここで逃げかえっていいのか。かえって、冷静になれる。鍵を入手する方法はまだ手はあるのではないか。そう思う。

＊紅い扉を開ける。

眩い閃光が君たちを包む。後ろには怪物が君たちを逃さまいと巨躯をこちらにむけて走ってきている。その長く大きく恐ろしい手が君たちを捕まえる直前に君たちは姿を消す。

目を開けるとどこかの館のような場所に出る。豪華な家具は相当な資産家だと思わせるだろう。すると重厚な扉を開けて一人の女性がやってくる。

「やぁお疲れ様。完走した感想は？」

「それでは結果を言い渡そう。

君たちは……合格だ。……おめでとう。

君たちはSearcherの一員だ。いや、これからは私達の家族だ！！」

ぱちぱちぱち、ボスは満面の笑みで拍手をする。

「最終試験は何をみたか。それは蓬さんも言っていたように、」

【現実を受け止められるか】を見ていたんだ。自分と相手との力量の差を正しく判断できるかという点を重視した。噛み砕いて言うなら正しく「恐怖」できるかということだ。」

「恐怖に抗うのではなく、恐怖をしっかりと受け止められるか。目先の利益や任務・プライドなど固執しすぎると、一番大事なことを忘れてしまう。」

「一番大事なモノ。それはなんだかわかるかい？」

「それは命だよ。命あってこそ、ぼくらはSearcherなんだ。」

ボスはイスから立ち上がり背後の窓の外を見た。

PC達が目を凝らすと墓石がいくつも立ち並んでいた。

「例え君たちが任務に失敗しても、その失敗の原因がなんだったのかを仲間に伝えるだけでも、それは大きな財産となる。」

「いいかい？君たちはこれまで難関をいくつも乗り越えてきた。自分にはできないことはない。そう思うかもしれない。」

「でも、所詮はちっぽけな人間なんだ。失敗したり落ち込んだりするのが人間なんだ。そして、そこから這い上がっていくのも人間なんだ」

ボスはゆっくりとPC達に向かうと胸に手を当てる。

「生きてこそ、それができる」

「ま、長い話になったけど、そーいうことさ。ちなみに、君たちの他にあと3人家族になった者がいる。何はともあれ、お疲れ様。用事がなければ今日はここで休むといい。身体が癒えたらSearcher全員で歓迎パーティーだ！」

シナリオ成功報酬

1D10回復

＋1D10(イゴを倒す)

・設定

第二試験・・・サーチャーの一員の記憶から作りだされ、追体験できるようになっている。

最終試験の神話生物は実体のある幻影。これもあるサーチャーの一員から作り出されたもの。